

## 自分でできる簡単な本の修理講座 全4回

### 第1回 修理の対象本

図書館では日々の業務として返却された本の状態チェックや休館日には棚の本の状態チェックをしています。

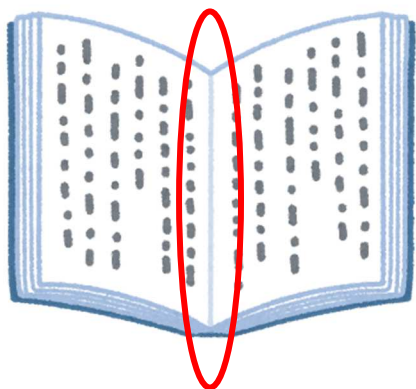
そこで傷んでいる本を見つけるとまた使えるように修理しています。

図書館の本は市民の皆さんの大切な財産なので出来るだけ処分するのではなく引き続き使えるようにと思っています。

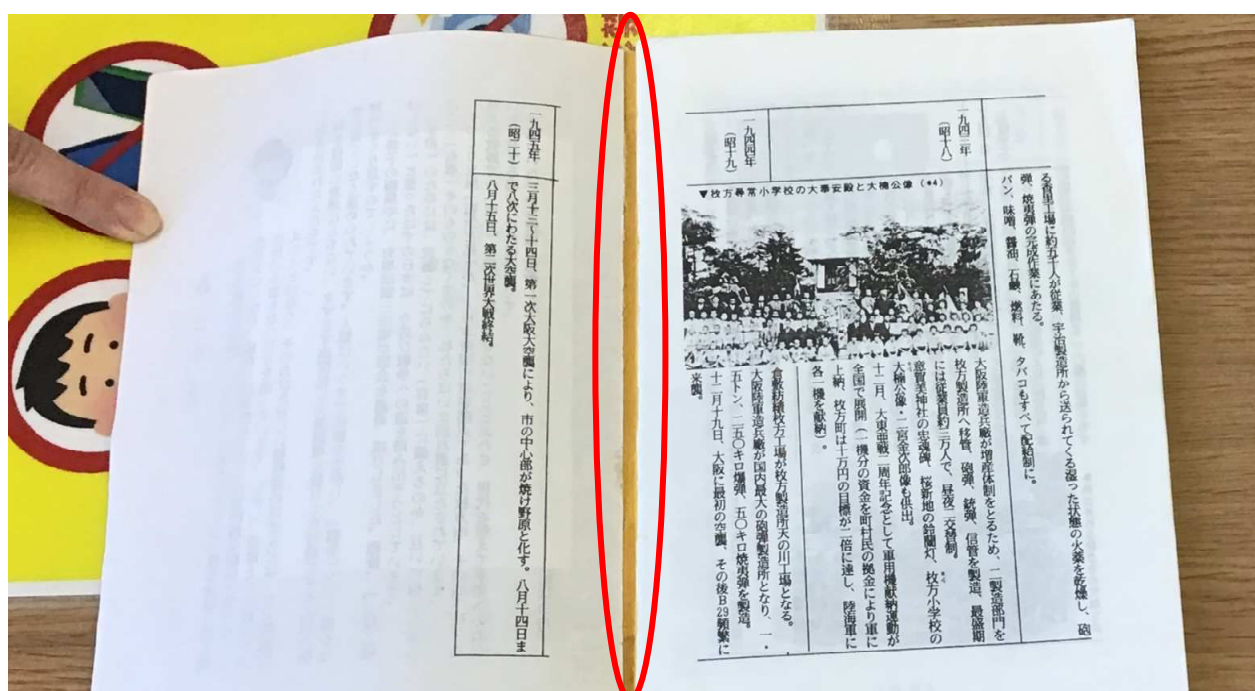
では、まず参考に図書館ではどういう状態の本が修理対象になるか見てみましょう。

#### ケース 1. のど割れ

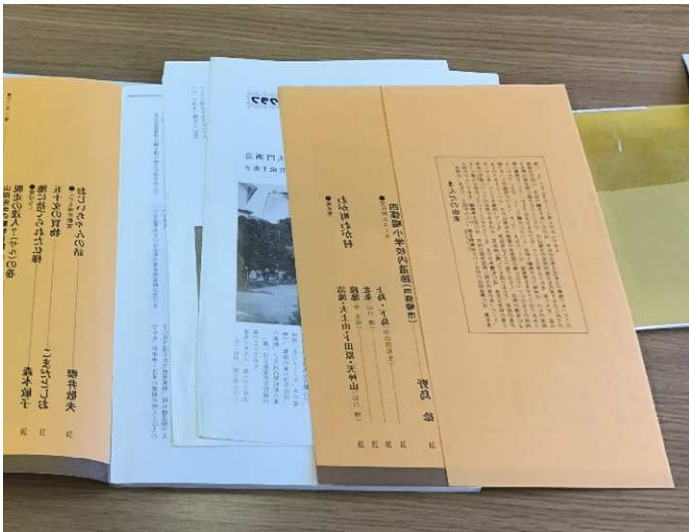
本を開いた時にページが背に接する部分を「のど」と言います。



こののど部分が割れて開いてしまっているものを「のど割れ」と言い、修理の対象になります。



## ケース 2. ページ外れ



ページが完全に分離してしまっている状態です。ページを強く引っ張ったりすると外れることが多く、文庫本によく見られる症状です。

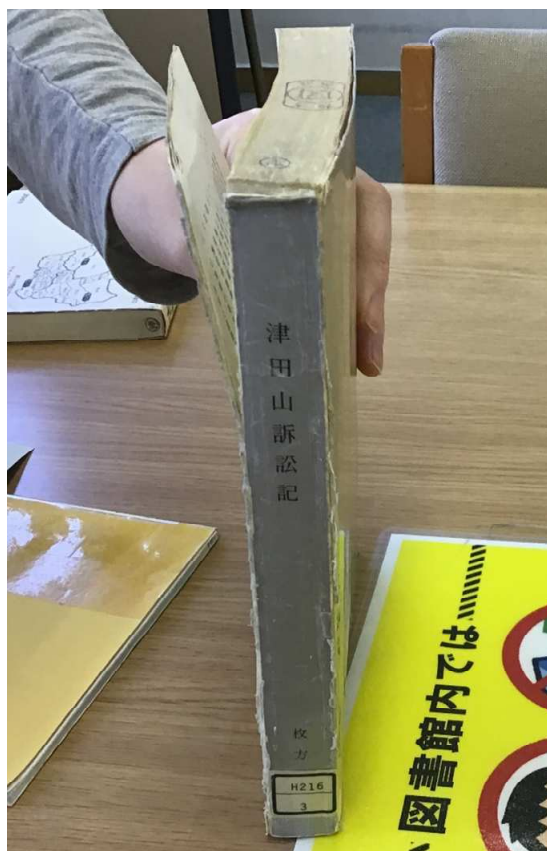
## ケース 3. ページ破れ



ページの一部が破れてしまっている状態です。

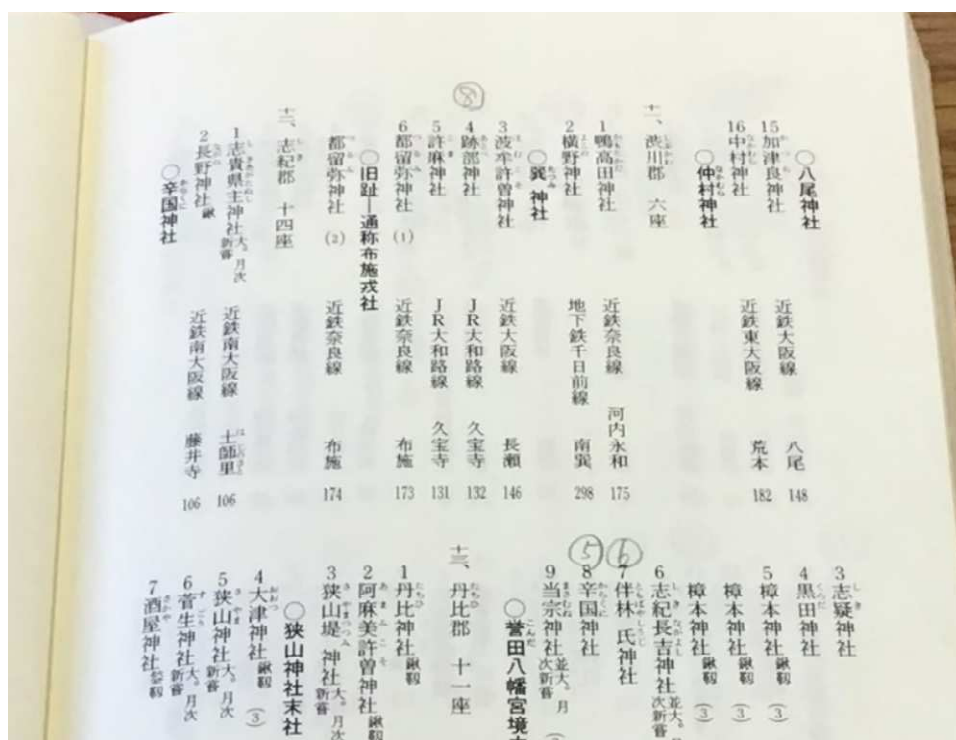
絵本など児童書に多く、めくる時につまむ所に破れが見られることが多数…早く先を見たい子どもの気持ちの強さの表れでしょうか！？

### ケース 4. 外装割れ



表紙や背など、本の外装自体が割れている状態です。  
ソフトカバーの本に起こる症状、何度も開いたりしているうちに表紙が弱くなって破れてしまうようです。

### ケース 5. らくがき



鉛筆やペンで書き込みがしてあるものです。

## ケース 6. セロテープの使用



こちらは、のど割れやページ外れに気付いた方がセロテープで修理して下さったであろう本です。

変色しているのは経年劣化の為です。セロテープでの修理は時間が経つと酸化し、色が変わるので止めましょう。本に色が移って落ちなくなります！

こちらも修理の対象になります。

次回は、

実際に図書館員がどうやって本を修理するのかをご紹介します。中にはお家で、自分で出来る修理方法もあるのでご参考にどうぞ。

ただし図書館の本に修理箇所を見つけたら自分で修理せず持ってきて教えてくださいね！